

今回のメルマガでは、ジャズ評論の世界ではタブーとされていることに少しだけ触れてみたいと思います。NHKなどで、タレントがちょっと過激な意見を言う、「個人の意見です」などとテロップが出るがありますが、あんな感じでしょうか(笑)。

◎インプットされる「感動予備情報」

以前からジャズ評論の問題点について何度か触れてきました。音楽的に見て明らかな間違い、あるいは的外れ的な書き方があまりにも多いためです。例えば、「アドリブは前もって作られている可能性が高い」、「エラ・フィッツジェラルドのスキヤットは最初から作った旋律を歌っている」などなど枚挙に暇はないのですが、今回書こうとしていることはちょっと違います。

上記のような間違いは、評論する側自身の無知、あるいは不勉強による面が大きいと思いますが、今回のテーマは「判で押したように素晴らしいとされてきたミュージシャン、演奏が本当に自分にとって素晴らしく感じられるか」という点です。

素晴らしいとかスゴイという見方は、それこそ個人の意見なのは当然ですが、そのミュージシャンに関して書かれている評論の内容がすべて素晴らしいとされていけば、特にジャズ初心者にとっては「感動予備要素」をインプットされた状態で聴くということになるでしょう。

で、実際に聴いてピンと来なかったらどうなるでしょう？最初のうちは、自分の聴く耳が育っていないからなんだろうと考えてもう1回聴く、でも何度聴いても変わらなければ他のミュージシャンを聴いてみる。そうするうちに好きなミュージシャン、演奏を見つけていくというのが、ジャズを聴き始めた頃、誰もたどる道でしょう。

ところが、何度か続けて評論と自分の感想がかけ離れると、「ジャズってやっぱり自分には分からないや」と離れてしまうリスナーもいるのではないかと思います。自分は、幸運にもそうならずジャズを聴き続けていますが、ずっと良さが分からない鬼門のミュージシャンはいます。その一人がビリー・ホリディです。

ビリー・ホリディのWikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%93%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%9B%E3%83%AA%E3%83%87%E3%82%A4>

◎ビリー・ホリディの神話

この中で「人種差別や薬物依存症、アルコール依存症との闘いなどの壮絶な人生を送った。」という解説があります。そして、ホリディのシンガーとしての価値を解説する評論には、ほとんどこの書き方がついて回ります。そして、引き合いに出される歌は「奇妙な果実」(Strange Fruits)です。人種差別が激しかった時代に、白人に虐殺され木に吊るされた黒人の様子を形容した言葉です。

当時はホリディが作曲したとされていましたが、今はルイス・アレンという人物が作詞作曲したというのが定説になっています。この曲を、NYのグリニッジ・ヴィレッジにあったカフェ・ソサエティというクラブで歌った時に、割れんばかりの拍手に包まれたというのがホリディ伝説の始まりです。

https://www.youtube.com/watch?v=wHGAMjwr_j8

全体としてバランスが取れた評論家と自分が思っている油井正一氏の「ベスト・レコード・コレクション ジャズ」という著書でホリディについて触れています。それによるとホリディが史上最高の女声ジャズヴォーカリストであったことは万人が認めるどころかあります。代表的なホリディ賛美の「神話」だと言えるでしょう。

自分も若い頃ジャズの歴史について書かれた本を読んで、「きっとすごいシンガーに違いない」というマインドを植え付けられましたが、当時は今よりヴォーカルの良さが分からなかったこともあり、ホリディの音源を聴いても全くピンと来ませんでした。今、上の音源を聴くと悪くないとは思いますが、良いとも思いません。

まして、晩年の名唱とされるアルバムLady In Satinあたりになると、聴き続けているのが難しくなるくらい自分の好みには合いません。
<https://www.youtube.com/watch?v=qA4BXkf8Dfo>

自分には、ホリディ賛美の何%かは、ホリディ自身の「壮絶な生涯」に影響を受けているような感じを受けます。確かに、当時の黒人が置かれていた状況が非常に厳しかったことは十分理解できますし、奇妙な果実のようなことが二度と起きてはいけません。しかし、そのことと、音楽を評価することは別であるべきだと考えます。

油井正一氏はホリディを賛美した後で、「最初はなんて変な歌手だろうと思ったが、印象の悪かったレコードを何度も聴くうちにジワリジワリと利いてくる」とあります。無条件にホリディを礼賛する評論も多い中ではリーズナブルな書き方だと思えますが、自分の場合はそのように聴こえ方が変わることはありませんでした。

◎「今自分が聴いて良いと感じるかどうか？」それが全て
ここは誤解のないように書きますが、今回の内容はビリー・ホリディを貶めることでもなければ、彼女を好きな人を揶揄したいわけでもありません。自分が好きな音楽を広げる上で色々な音源を聴くと思えますが、演奏について書かれた評論や情報がいくら素晴らしいという内容であっても、自分が聴く時には一旦その先入観を取り払って聴くという提案をしたいただけです。「活字になっているから素晴らしい演奏のはず」というインプットされた情報から逃れるのは実は難しいことですが、「聴いてどう感じたか」だけを大切にしてください。

たとえ先入観から逃れられなくても、その演奏を良いと思ったら問題ありませんが、問題は自分がどうしても良いと思えない場合です。特に、これからジャズを聴いてみようという人が、「評論家やネットでの情報を見ると素晴らしいと書いてあるのに自分は良さがわからない。これは自分にとってジャズは合わない、あるいは難しすぎる」と感じてジャズから離れてしまうと、非常に残念でもったいないと思うのです。

最近でこそ少なくなったように思いますが、自分の好みが誰にとっても絶対だと考えているような評論家や長年のジャズ愛好家には、「この良さが分からなければジャズを聴く資格がない」といったような言説も見られます。自分に言わせればこうした言い方はあまりに傲慢であり、多様化して当然の音楽への好みを認めない狭量なものだと思います。ジャズを聴く人が減ったのは、こういった情報が多かったせいもあるのではないのでしょうか。

このメルマガにもそれは言えることです。自分がミュージシャンやライブ、音源を高く評価する場合、心からそう思っています。それはあくまで自分の見方ですから、それにとられることはないと思います。自分にしても、現在の好みが半年後には変わっているかもしれません。重要なのは、音を聴いた時点でどう感じるかだけだと思います。そして、満足しなければ他の音源、ミュージシャンを聴いてお気に入りを探すべきでしょう。

ただ、fbやメルマガで自分がライブ告知やレビューを書く際は、この音楽の良さを多くの人に伝えたいと心から思った時にだけ書いていますし、情緒的ではなくできるだけ具体的に書くようにしているつもりです。聴いたことがないミュージシャンでも、自分の書いたものを見てもし興味が湧いた場合に一度は足を運んでいただきたいと思っています。聴いてどう感じるかはその人次第だと思いますが、自分が具体的に書いている内容に嘘はないことが分かっただけならば幸いです。

◎Lydianからのお知らせ 1 2月前半のピックアップライブ
いずれも18:30開店 19:開演 ミュージックチャージ:3,300円(税込)

・2/7 上長根明子(p)/中村健吾(b)デュオ
Lydianで初めて実現し、大好評だったデュオの再演です。良いメロディとビートに溢れています。驚異的にも言える中村さんのピッチと歌心を、上長根さんが引き出します。

- ・2/10 瀬瀬歩美(as)/福井アミ(p)デュオ
Lydian恒例、ハコの響きを生かした瀬瀬さんとピアノのデュオです。福井アミさんの強力な左手伴奏は独特の魅力があり、益々鳴りが良くなっている瀬瀬さんのクールでホットなサックスサウンドをよりswingさせます。
- ・2/12 大山日出男(as)トリオ
いつも知らずに足が動いてしまうくらいにswingする大山さんのトリオ、華麗なサウンドで表情でも魅せる吉岡秀晃さん(p)、暖かくて太いビートを持つ吉田豊さん(b)との組み合わせはgood!

◎Lydianからのお知らせ2

4/7(日)は、レクチャーライブの4回目。今回は、今年の浅草ジャズコンテスト、ヴォーカル部門の金賞（ソロイストではN01）を獲得したRemiさんをお迎えして「コール・ポーター特集」をお届けします。魅力的なポーターの名曲の数々を、曲作りと歌詞（作詞もポーター）、両方の面から解説し、その後に聴いていただくことで、本来の曲の魅力を十二分に堪能していただけます。

まず、作曲技法の面では、①モチーフ展開、②メジャーとマイナーへの乗り入れ、③ユダヤ的メロディ、といったポーターが得意とする技を自分（中川）が解説します。その後に、英語の歌詞の世界を日本語で伝えるのを得意としているRemiさんによる解説があり、その後に本番の演奏を聴いていただきます。これによって、今まで知ることのなかったポーターの曲の本当の魅力がお分かりいただけます。

※演奏予定曲の一部（変更の可能性あり）

- ・Begin The Beguine
- ・So In Love
- ・I've Got You Under My Skin
- ・You'd Be So Nice To Come Home To
- ・I Concentrate On You
- ・What Is This Thing Called Love

4/7(日) 13:00開店 13:30開演
ミュージックチャージ：3,800円（税込）

ご予約はこちら → <https://ws.formzu.net/fgen/S29023882/>